

# あした、輝け!

〒273-0112  
千葉県鎌ヶ谷市東中沢 2-19-88  
TEL.047-445-5260 FAX.047-443-5551  
<http://www.t-matsuzawa.net>  
みんなの会 会長 伊藤吉郎



## 3月議会 議案の中から

### ① 議案第25号

#### 平成25年度鎌ヶ谷市一般会計予算

一般会計総額 320 億 6000 万円、特別会計総額 207 億 8000 万円、合計 528 億 4000 万円と昨年度当初予算 475 億 3200 円より 53 億 8000 万円増の予算案が可決。予算審査特別委員会での質疑や鎌ヶ谷市の財政の現状について報告します。

	25年度	24年度
一般会計	320 億 6000 万円	278 億 3000 万円
特別会計	207 億 8000 万円	197 億 2000 万円
国民健康保険	121 億 2600 万円	117 億 3200 万円
公共下水道事業	20 億 7100 万円	19 億 5900 万円
介護保険	57 億 3300 万円	52 億 3400 万円
後期高齢者医療	8 億 5000 万円	7 億 7700 万円
合計	528 億 4000 万円	475 億 3200 万円

### ① 予算審査特別委員会における松沢の主な質疑

#### 総括質疑

#### ② 市全体の債務残高の今後の推移について

② 平成 25 年度末約 396 億円、平成 26 年度は約 431 億円、平成 27 年度は約 436 億円と推計している。

#### ② 公共施設の維持管理費について

② 平成 23 年度決算で総額約 17 億 3000 万円

#### ② 公共施設再編計画と公共施設の長寿命化に関する基本方針の連携について

② 再編計画では施設の統廃合や利用方法、運営方法の検討するもの。長寿命化については、老朽化した施設の大規模改修等の費用を平準化して計画的に進めていくもの。公共施設再編計画は平成 25 年度に見直しを行う予定であり、各施設が何年度まで稼働することができるのかを踏まえたうえで計画の作成をしていく必要がある。

## ★ 松沢の視点

市全体の債務残高は平成 24 年度末で約 365 億円であったが、平成 25 年度末に約 396 億円と増加すると推計している。(仮称) 文化センターはもちろん、給食センターや消防施設の建替え、本庁舎の耐震工事等、施設の建替、改修が市の財政に影響を与え、今後も債務残高が増加することになる。次世代にわたって安定した財政状況であればこそ、「街の安全・安心」につながるのではないか。今はまだ人口増加中の鎌ヶ谷市だが、将来の人口推計と高齢化に合わせた歳出構造を形成していく必要がある。

### ① 近隣商業拠点整備事業（新規事業）350 万円

#### ② 概要について

② 平成 16 年から 17 年にかけて地元住民との北初富駅周辺の整備構想を取りまとめ、平成 19 年 3 月に市の構想として位置付けた。誰もが安心して横断しやすい交差点の整備やにぎわい交流機能を有する駅前広場の整備、駅と都市計画道路や商業施設を結ぶ幅広く歩きやすい道路の整備を主な項目としている。

#### ② 今後のスケジュールについて

② 平成 25 年度は測量と駅前広場の概略の設計を予定。その後、用地取得、公安委員会との協議、工事発注に向けた図書作成を行い、平成 29 年度に駅前広場整備工事を実施予定。



工事が進む北初富駅

### ① つどいの広場実施事業 223 万 6000 円

南児童センターに設置（平成 25 年 7 月開設予定）

② 児童センターとつどいの広場の違いについて

②

	内容・特徴	時間
児童センター	年齢ごとにサロンや親子クラブ、体験教室など様々な地域交流事業を実施。	月 2 回程 約 1 時間
つどいの広場	子育て経験や知識のある職員が常駐しており、子育て相談ができる。	週 3 回 1 日 5 時間 開設

#### ② 今後の方針と周知について

② 第 2 次実施計画において各児童センターで拡大予定。また、開設済みの中央児童センター、ホームページ等で周知を図る予定。

#### 若手市議会議員の会研修会に参加

「災害時の自治体と議員の役割」 4 月 18 日

「政府の復旧・復興の現状と課題」 4 月 19 日

「浦安市の災害復興施策について」 4 月 19 日

鎌ヶ谷市は地震による建物への影響は比較的少なかったが、放射能の汚染状況重点調査地域として指定されたこともあり、東日本大震災の影響を受けた自治体である。様々な危機に対応すべく、議会での役割と、市民と行政を繋ぐ役割を一つ一つ精査する必要があると感じた。



浦安市の震災モニュメント

### ① 学力診断テスト実施委託（教科拡充） 296 万 9000 円

② 昨年度から実施している学力診断テストの評価について

② 4 月に実施し、6 月には細かく分析されたことを反映し、結果をもとに授業改善にいかせるよう努力してきた。また、算数については大学の先生に来ていただき、教職員に対する研修を深め、取り組んできた。

#### ② 鎌ヶ谷市の学力について

② 小学校の国語は基礎、活用ともに全国平均を上回っている。特に表現力に至っては全国平均を大きく上回っている。また、算数の基礎はほぼ全国平均であったが、活用に関してはやや下回っている。中学校の国語も基礎、活用ともに全国平均を上回っている。数学の基礎はほぼ平均であったが、活用が下回っている状況。

### ① 議案第31号 都市公園を設置すべき区域の決定について

鎌ヶ谷市丸山 1 丁目にある川慈公園を都市公園として区域を定める議案が可決。

## 松沢たけひと プロフィール



● 昭和 50 年 鎌ヶ谷市東中沢で誕生

● みちる幼稚園卒園

● 市立鎌ヶ谷中部小学校卒業

● 平成 2 年 市立鎌ヶ谷第四中学校卒業

● 平成 5 年 県立白井高等学校卒業

● 中央学院大学法学部法律学科卒業

● (株)人形工房 武人 設立 代表取締役

● 節句人形師として、日本古来の伝統を守り続ける

● 平成 19 年 鎌ヶ谷市議会議員 初当選

● 平成 23 年 鎌ヶ谷市議会議員 再選

私、松沢たけひとは 37 歳と会派政友会の中では最年少ではあります、鎌ヶ谷市議会議員の一人として、市民の皆様に信頼され、そして、期待に応えられるように行動してまいります。

お金かけないクリーンな活動を展開するため、サポーターを募集しています。 〒273-0112 千葉県鎌ヶ谷市東中沢 2-19-88

TEL.047-445-5260 FAX.047-443-5551

<http://www.t-matsuzawa.net>

# 一般質問 3月議会

## i 農業政策について

鎌ヶ谷市の農業においては、都市化の進展による環境保全対策、相続による農地減少、農業従事者の高齢化など多くの課題をかかえています。また、TPP 参加により日本の農業を取り巻く環境は厳しさを増すと言われております。鎌ヶ谷市が目指す「市民が支える都市農業のまち鎌ヶ谷」実現のためには何が必要なのでしょうか。

## Q 鎌ヶ谷市における農業の現状、特徴について

A 都市化の進展が著しい中、農住混在化が進み、農業従事者の高齢化や後継者不足などにより耕作が困難な農家の増加が懸念されている。また環境に配慮しながらの生産といった厳しい営農環境にある。一方で伝統的な高い技術力の蓄積とすぐれた経営感覚を持った大変先進的で特色ある農家が多い。また首都圏という巨大マーケットがあり、新鮮で安全な農産物を供給するとともに、観光農園や産地直売など、今後の発展可能性が十分にある都市農業ということが特徴である。

## Q 農地面積と宅地面積の推移について

	平成 18 年度	平成 23 年度	
農地面積	543	505	約 7% 減
宅地面積	686	732	約 7% 増

単位 ヘクタール

## ご意見

市政に関するご意見等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。  
また、お友達との井戸端会議、勉強会等、2~3人でも出張市政報告に伺います。

TEL 047-445-5260  
FAX 047-443-5551  
E-MAIL kamagaya@t-matsuzawa.net

### Q 経営耕地面積の推移について

	平成 17 年度	平成 22 年度	
経営耕地面積	415	390	約 6% 減

単位 ヘクタール

### Q 鎌ヶ谷市の農業粗生産額の推移について

	平成 12 年	平成 17 年	
	約 48 億 6 千万円	約 42 億 7 千万円	約 12% 減

### Q 鎌ヶ谷市における農家数、農家人口、そして販売農家数の推移について

	平成 17 年度	平成 22 年度	
総農家数	437 戸	405 戸	約 7% 減
農家人口	1,734 人	1,492 人	約 14% 減
販売農家数	362 戸	338 戸	約 7% 減

### Q 担い手育成のための対策は?

A 持続的かつ健全な農業経営者を育成するため認定農業者制度を設けている。農業経営に対し、意欲的な農業者を主にみずからが設けた改善計画を市へ提出し、市の基本構想に照らして認定するもので、地域農業の担い手となり得るように積極的に支援、育成していく制度。また、農業青少年クラブ（4Hクラブ）の活動支援や生活改善研究会といった助成農業者の育成を行っている。



### Q 認定農業者制度における認定状況について

A 現在認定件数は 36 件、そのうち 11 件は家族による共同申請。認定農業者総数は 46 名。

### Q 耕作放棄地の現状と推移について

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
件数	17	21	17
耕作放棄地	4.2 ヘクタール	5 ヘクタール	5.8 ヘクタール

3割程度前後が是正されているが、新たに指導対象となる農地もあるため、増加傾向。

平成24年度の内訳は、市内所有者が約 50%、相続等により農地を取得した非農家も 50%。

## まとめ

平成15年に都市農業創造プランが策定されてから10年が経ちました。総括しますと、行政は評価しているにも関わらず、10年後の結果としては、農地面積や農業従事者、農業粗生産額等、鎌ヶ谷市の農業を取り巻く環境は厳しいのが現状です。この10年の成果と課題を踏まえて、第2次都市農業創造プランの遂行に努める必要があります。



### Q 農用地利用権設定等促進事業について

A 農地の貸し借りについて農業経営基盤強化促進法に基づき鎌ヶ谷市が計画する農業経営基盤の強化の促進のため、農用地における利用権の設定等を行う事業。平成 24 年 12 月末現在で 18 組の農家による農地の貸し借りが行われており、面積で約7ヘクタールとなっている。

### Q 都市農業創造プランをどのように評価しているのか

A 農業施策の各種項目において検証する意味で実施した農業経営等に係るアンケート調査で、そこに寄せられた意見ではおおむね達成できたという結果。平成 15 年策定の鎌ヶ谷市緑あふれる都市農業創造プランにより、市内産農産物の知名度アップやブランド化に向けた取り組みや農業環境という面からも本市の農業を今後も守り、発展させていくためには、持続性のある農業経営の確立と生産者である農家と消費者である市民の共存共栄を両輪に、これらを踏まえまして各種施策を行ってきた成果のあらわれと評価している。一方で、都市農業の置かれた厳しい環境は現在も変わらない状況を踏まえ、生産者と消費者の距離が近いという利点や長期的な農業施策の視点が必要との考えから、新たなプランにおいても必要な部分は引き継ぐことなど、将来像としての市民が支える都市農業のまち鎌ヶ谷を目指す。



## 編集後記

3月議会では議会提出の空き家条例が可決しました。施行は平成25年10月1日です。特別委員会の一人として条例制定に係りましたが、制定して終わりではなく、施行後の具体的な運用によって、市民生活に支障がある老朽化した住居などが無くなることが目的であります。市民、行政、市議会が一丸となって安心して暮らすことができる街づくりをしていきましょう。